

第 30 回 NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 実技セミナーin 大崎 開催報告

会期：平成 28 年 5 月 21 日（土）

会場：永仁会病院

主催：医療法人永仁会 永仁会病院

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：日清オイリオ（株）

【開催目的】

当院では摂食嚥下困難な患者に対し、嚥下チームが介入して口腔ケア・嚥下体操・食事介助・食事形態の検討を行ってきた。しかし嚥下チームメンバーが入れ替わり、活動が薄れ、食事介助技術にも個人差が見られるようになり、統一が図れなくなった。

近年、退院後にも摂食嚥下への援助が必要な患者が増加傾向にある。

そこで今回の実技セミナーの開催目的を以下の 2 点とした。

①食事介助に携わる者が姿勢や食事場面に必要な知識・技術を学ぶ。

②嚥下評価を基に対象に合った食事形態に繋げ、嚥下チームを中心に食事介助技術の向上・及び統一を図ること。

また当院のみならず、大崎地域の関連施設に参加を呼びかけることで「口から食べる」知識・技術を学ぶ機会を得て、経口摂取への取り組みが拡大することへ繋げていきたい。

【アドバイザー一覧（敬称略）】

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師（摂食・嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （宮城）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®理事 医療法人憲仁会 山谷歯科医院 気仙沼市立本吉病院 一関市国民健康保険藤沢病院	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
小野寺裕子 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
小山 竜也 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	介護士 KTSM 実技認定者
三束 梨沙 （宮城）	気仙沼市立病院	言語聴覚士 KTSM 実技認定者

セミナーの様子



講演会から熱気ムンムン！



車イスでの食事介助



口腔ケアの実技



実技は細かく丁寧に指導！



患者役の体験も重要！



ベッド上での食事介助



小山先生の熱血指導 PART 1



小山先生の熱血指導 PART 2



参加者との意見交換

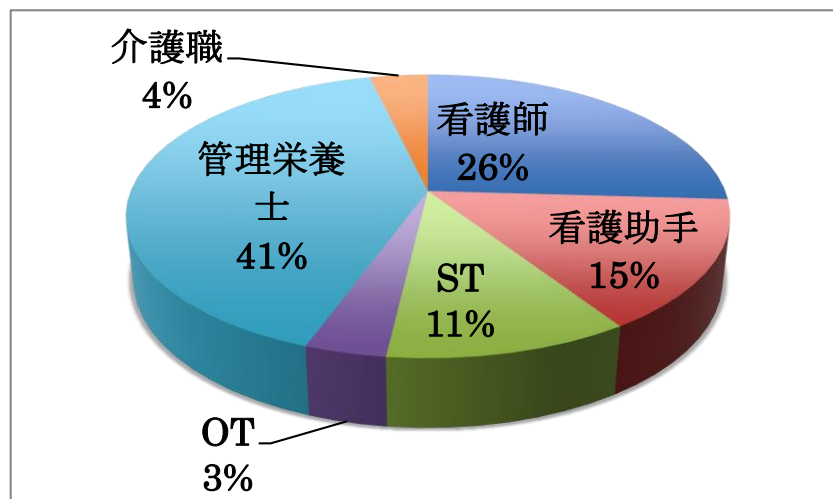
アンケート集計結果（回答者 27名 回収率：90%）

今回で、3回目の実技セミナーは永仁会病院で行われました。宮城県内での実技セミナーは気仙沼市に続いて、2ヶ所目の開催になります。今回、講演会には約100名、実技セミナーには30名の方にご参加いただき、相互実習で「口から食べる」ため技術を学び、多くの方からスキルアップにつながったとの感想をいただきました。

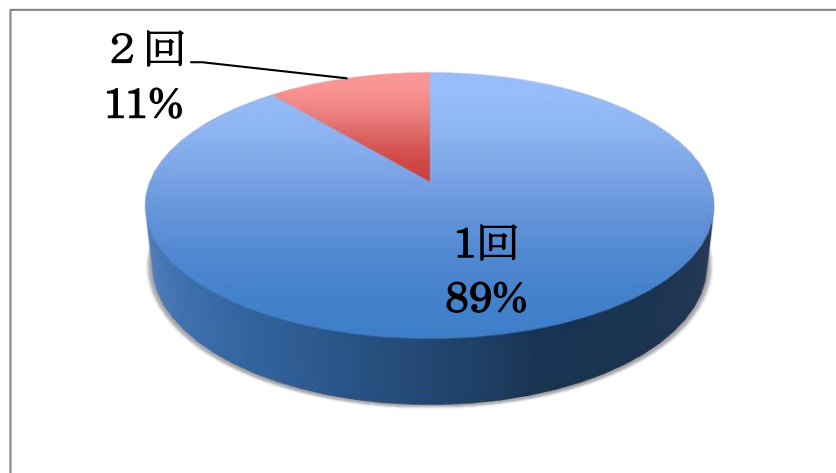
また永仁会病院さんは病院全体で「口から食べる」ことに力を入れており、宮下理事長先生、鈴木院長先生をはじめ、栄養科、看護部が一丸となって、今回のセミナーにご尽力いただきました。

今後も宮城県内での実技セミナーの開催を予定しております。宮城県から東北、全国に「口から食べる輪」が広がるようにしていきたいと思っております。

【Q1：職種】



【Q2：実技セミナーへの参加回数】

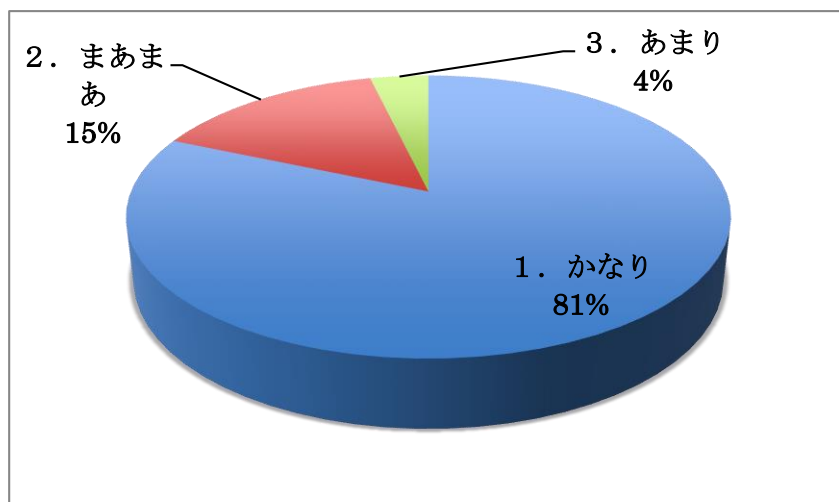


〔今回参加した動機〕

- ・ 摂食嚥下評価、対応方法を学びたかった。

- ・ 事業所より進められた。
- ・ 摂食困難患者の食事介助で困っていたため。
- ・ 職場の嚥下チームへの情報提供するため。
- ・ 口から食べさせるような施設にしていきたいため。
- ・ 在宅での食事介助の方法を知りたかった。
- ・ 日頃、口腔ケアや食事介助の機会が少なく、今後の現場介入の頻度を増やし正しい知識を理解したかった。
- ・ 片麻痺の患者の食事介助方法や評価方法を学びたかった。
- ・ 食事介助方法に無知で経験がないため。
- ・ ポジショニングを学びたかった。
- ・ 講演会で KTSM 実技セミナーがあることを知ったため。
- ・ スキルアップのため。
- ・ 1度参加したが、まだまだ技術を活かしきれないことが多く、さらなるスキルアップのため。

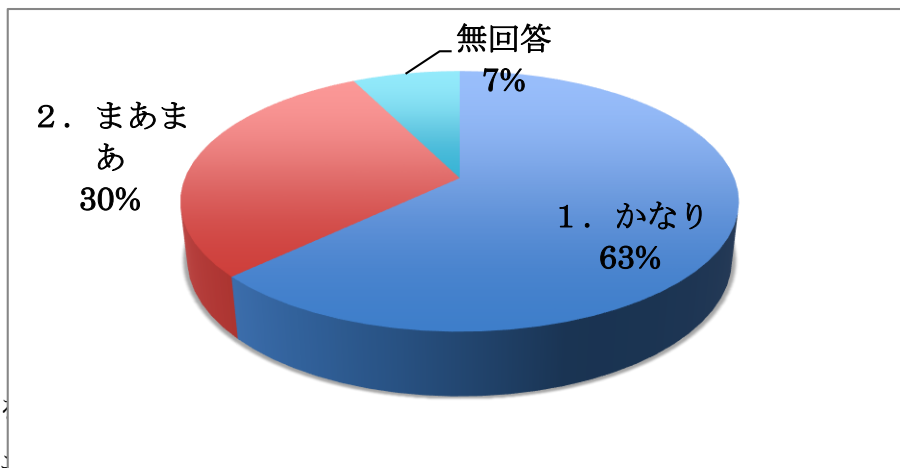
【Q3：セミナーの内容はスキルアップにつながったか？】



- ・ 2回目の参加だったため、「できていると思い込んでいた」部分と「まあまあできていた部分」がわかり、課題がわかった。
- ・ 力の強さやポジショニングなど、実際にやってみないとわからない事ばかりだった。実践があり、とても勉強になった。
- ・ 直接患者の食事に触れる機会がなかったため、ベッド上や車椅子での姿勢保持がこんなに大変で、かつ大切だということがわかった。
- ・ 少しでも実践につなげていきたいと思う。
- ・ 今まで自分が行っていた援助は、患者視点で行っていたものではないと感じた。今回の実践を業務へ活かしたい。
- ・ 食事介助に関わる自信になった。
- ・ 根拠に基づいた指導に納得した。
- ・ 自分のできていない所や悩みながら行っていることへの解決方法を知ることができた。
- ・ 実際にやってみると、教科書とは全く違いコツをつかむまで大変だと感じた。自分だったらどうしたら食べやすいのか考えながらやっていくことが大切だと思った。

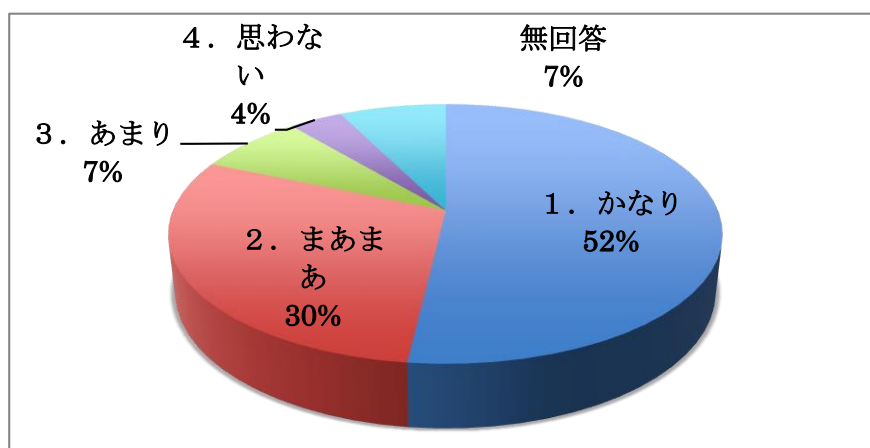
- ・ いままでは自己流で介助している部分があり、患者の立場で体験できてよかった。
- ・ 評価方法の細かいところがよくわかった。
- ・ 実際に経験したが、技術が到達していないためうまくできるか不安がある。
- ・ なかなか難しく、スキルアップにはつながらないと思った。

【Q3：セミナーの内容はスキルアップにつながったか？】



- ・ 食事介助のスキルアップがしたい。
- ・ ポジションのスキルアップがしたい。
- ・ 片麻痺の方がおり、その患者の食事介助に活用していきたい。
- ・ 自力摂取できているから大丈夫、と思っていた人でも、実は半介助も必要だと学んだ。
- ・ 姿勢保持と食事のスピードの影響は大きいと思った。
- ・ 正しく介助するためには、クッションやタオルなどかなり必要、そのツールをどう揃えるか課題でもあったと感じた。
- ・ 車椅子での介助方法を活用していきたい。
- ・ スプーンの運び方は大変勉強になった。
- ・ 食べられないとあきらめず、食べることの幸せを感じてもらえるよう関わっていきたい。
- ・ 歯磨き後にうがいのできない方の介助方法や、口が開かない、食事が進まない時の介助方法を活用していきたい。
- ・ 管理栄養士は厨房の人という意識が強い。研修会に参加して伝達するが、なかなか実行してもらえない。少しずつ実践してもらわれるよう頑張りたい。
- ・ 患者のADLに応じて介助していけると思う。
- ・ 食事の時にバランスが悪いままご飯を食べている人がいるので、枕等を使用して安定するようにしたい。

【Q4：自ら企画しようと思うか？】



- ・ 病院や施設職員全員に知ってもらいたい。
- ・ 施設内で伝達講習を行いたい。
- ・ 多職種で参加しているため、自ら発信して企画できるように行動していきたい。
- ・ 個別→集団と対象の人数を変えながら、体験型の研修を行っていきたい。
- ・ もう少し勉強して（一瀬先生の元へ出向き）行ってみたいと思う。
- ・ 準備や企画が大変そう。

【Q5：今後取り上げてもらいたい内容は？】

- ・ 側臥位の食事介助方法
- ・ 認知症の食事介助方法



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！